

影響するといふのは、まさに然るべき所でありま
す。

女子教育の大切なる所以
されば子供は、殆んど母親の育て方次第であると
いふことは、明瞭なる事實であつて、母たる人の
教育の大事なることは、今更言ふに及ばぬことで
ある。任にその衝に當る女子教育者の責の重且つ
大なることは、さることながら、生れて女性たる
方は、十分の用意がなければならぬ、女子教育、
女子修學の大切なることはこれにて分る、さはい
へ、男子の方面からいへば、男子の方も仲々重い、
注意すべきことの多い中に、殊に酒色に耽ること
が、その子に激烈な害を残すことを承知せねばな
りません。

婦人の節操

樂天子

婦人の節操は百行の本、萬徳の中心であります。
論語に周公の才の美なりと雖も、驕り且つ吝なれ

ば、その餘は見るに足らずとありますが、婦人の
人格を論ずるにおきましても、又かくの如しと言
はねばなりません。如何に彼の清少納言の機智才
藻がありましても、婦人の節操の點に於て、如何
はしいことがありましたら、その餘は見るに足ら
ぬと言はねばなりません。

これに依て之を見るときは、女子の節操は、學識
よりも才能よりも、財産よりも、美的修養よりも、
重きが上に重くして、女子の人格を左右するもの
と言はねばなりません。

されば、わが國に於ては女子の節操は、古來男子
の忠愛心に比し如何なる順境に在つても、如何な
る逆境に在つても、之を亂さないやうに努むるこ
とは、必ずしも中等以上の婦人に強ふるばかりで
なく苟も女子と生れたる以上は、所謂「貞女兩夫
に見えず」の格言を以て、終生の教訓としたるも
のであります。

然るに現時の説は、どうであります。女子と雖
も、男子と同じく人權天福を有して居ります。有
夫の婦、又は有婦の夫にして、他に二心を有する

は沙汰の限りでありますが、その配偶者の死亡、又は法律を以て離婚の正當なるを主張し得べき場合には、離婚再婚決して不可とするではありませぬ。否、却つて之を奨勵すべきものだ、是亦道理ある言葉であります。

固より再婚の可否に就ては、私は男子についても女子と同様な意見を持つて居るものであります。が、之を人倫より見たならば、再婚は高潔なる愛情を殺ぐものであります。所謂戀愛の神聖を汚すものであります。例へば男子の戰場にありて、將斃れ卒死し、刀折れ矢盡きて、降參を軍門に乞ふものが、必ずしも現代武士の耻辱とするに足らないとしても之を以て日本武士の面目とすることの出来ないやうなものであります。されば現代の日本婦人は、如何に節操を持つべきかと云ふに、それは申すまでもなく、「貞女兩夫に見へず」といふ高潔なる心情を保ちてその如何に逆境に遭ひましても、再婚を拒み、高潔なる生活を希ふべきは勿論であります。

以上の再婚否認説は社會の各婦人に申すばかりで

なく、世の男子に對しても、亦之を希ふものであります。未だ社會の不完全にして、人事の不如意なる、是非この様な嚴肅説を、一般の婦人方に強ふことは出来ません、その生ける夫に對して、至誠の情に缺くることなく、その死せる夫に對して追善供養の赤心を了るものは、(凡そ一ヶ年を以て限度とします)。再婚が必ずしも不名譽とするものではありません、却つて世の如何はしき獨心者流に優ること遠しとするものであります。

故に私は、その素養深き高潔なる婦人の再婚を拒まるを、人生の大名譽とすると共に、世の常の婦人に對して、正當なる再婚を遂げらるゝを、今代の人道として寧ろ希望するものであります。

保育叢話

光藤夫人

十年間中子供を育てるにつきて最も痛心せし失敗談子供をして、病氣にかゝらして心配した事もありませんし、下女共に預けて置いて我怪をさせられて